

昭和56年度

青 葉 会

総 会 ・ 懇 親 会

報 告

(懇親会風景)



十一月二十三日、勤勞感謝の日、わが同窓生こそって学校に顔を出す日となつてから二回目の当日が来た、前夜来木枯が吹き荒れ、落葉が校門週辺に敷きつめ、秋らしいよ

顧問石関力太郎先生、また恩師の先生方が見えににならなかつたので現職の石関先生が立ち、現在未だかつてない程度同窓会活動が充実して来ており、軌道を走り始めています。これは五十周年記念行事をきつかけに、前会長富川孝恭(昭和三十

られた卒業生が何組かいたし。また本校近郊ばかりでなく静岡とか、福島など遠路はるばる出席された人達もいた。青春時代の数年を過ぎた母校の存在がいかに大きな吸引力があるかしみじみ感じさせた。会は立食の形式を予定したが

三五年 植原 三七年 山口 敏史 四六年 阿久津時江(菊岡) 五〇年 佐田明彦、平山芳三 五三年 高橋 八重 五四年 遠藤 五五年 久慈 佐々木之江、山崎克幸、田中宏和、田中美佐子、須藤州一、森謙二、安部純子、佐藤 五六年 大野喜三男、郡司とし子、安達由加、大地ユリ子、平山哲也

定刻午後一時次の次第で始

総 会

役員紹介 全員留任

出席者

開会のことば 川上恵

懇 親 会

出 席 者

定時制生徒との一年

会長あいさつ 石田弘

校歌斉唱

出 席 者

「青葉会」に出席して

名譽会長あいさつ 杉

校歌斉唱

出 席 者

「青葉会」に出席して

来賓あいさつ 青葉会

校歌斉唱

出 席 者

「青葉会」に出席して

同窓生の母校愛がひいては青葉会の発展につながるものと卒業生の協力を希望された。

顧問中村十成先生(現職)が声高らかに乾杯の音頭をとられ、なごやかな歓声のうちにパーティに入る。今回は夫婦揃つて、あるいは女子連れで来

二九年 石田弘、古谷弘、竹内務、神崎敬子、上村文子、中野 男、恵子(大塚) 鈴木宏子、片岡琴子(小室) 須具一郎、塚中和夫、小原宜雄、西村健治、馬場康作 三十年 川上忠重、佐々木義政(多田)平林真澄(金子)竹内宮代子、長崎京子(亀山) 中川貞子(船越)浦上幸雄、 町田克弘(田中)河野芳彦、 小内内美恵子(田沢)山下良弘、 多田富子(山本)益田亮二、 横堀久子(荒川)谷美佐子 (鈴木)福島京子(古戸)久保田幸子(片桐)長竹正也 三三年 浜中明子、伊藤君子 (松永) 三四年 富川孝恭、美智子 (鶴岡)堀江浩

「青葉会」に出席して 四二年卒 鈴木 治枝 (旧寺田)

今年には誰に会えるかと楽しみに校門に入るといたいた。姿交われど声は変わらず、気取ることも、飾ることもなく昔話に花が咲き、時間はアツという間に過ぎていきます。心づくしのテーブル、趣向を凝らし、好評を得ているというバザール、抽選会が始まるころは余もたけなわ、我が家人のおみやげとすべく購入し非常に喜ばれた洋酒と貴重なカレンダー(出品してくださった方に、特によりしくと

一年後の再会を約して帰路に着くころには口も相当にしゃべり疲れて一日の休日は終りました。 毎年のことであるだけに、お世話いただく先生方にはじめ会長さん、各役員さんの御苦労は大変なものと思われま。会があるのを知った方は一人でも多くの参加を呼びかけ年に一度、三田の校舎で再会を果たせたら、素ばらしいではありませんか。 楽しい休日、ありがとうございました。

石田技研株式会社 代表取締役 石田 弘 (昭29卒) 〒144 東京都大田区羽田旭町1-1 TEL 03 (744) 2 2 1 1 (大代表)

紙のことなら イオカワ紙店へ 株式会社 五百川紙販売 代表取締役 五百川 武 (昭41卒) 〒108 東京都港区白金1丁目21-4 TEL 03 (446) 5 5 7 1 (代表)